

初期中国語訳聖書における数詞と量詞の 表現に関する一考察

塩山正純

SHIOYAMA Masazumi

愛知大学国際コミュニケーション学部

Faculty of International Communication, Aichi University

E-mail: shioyama@aichi-u.ac.jp

要 旨

马礼逊 (1782-1834) 是新教来华传教士之嚆矢, 他来华之后陆续完成了三个方面的工作; 即圣经的汉译、英华·华英字典的编纂、汉语言的研究。第一项的圣经的汉译就是汉译《神天圣书》全文的工程。汉译圣经的几种文体中,《神天圣书》一般被分类于所谓“文理 (Wenli 或 High Wenli)”。但是, 马礼逊本人在从事汉译工作时, 曾指出过“圣经的翻译应该讲究原文”。他也认为“以像《三国演义》的文体最为合适”。本文以《神天圣书》的四个福音书为中心资料, 通过这四福音书和《圣经直解》、《四史攸编》、《神天圣书》的后一代汉译圣经即由马礼逊的儿子来修改的译本、裨治文·克陛存 (E. C. Bridgman · M. S. Culbertson) 的译本的比较对照的方法, 考察数词和量词的使用情况, 初步探讨以《神天圣书》为代表的初期汉译圣经词汇的特征。

通过考察, 本文可以指出以下内容。《圣经直解》和《四史攸编》基本上都是文言体, 使用“两”次的句子很少出现, 几乎都是使用“二”的句子。但是, 关于《神天圣书》, 从全体的印象来说, 从《圣经直解》和《四史攸编》有所变化, 使用“两”的使用频率超过“二”, 而且“两”字跟量词一起使用的情况也增多, 整个翻译文中包含着很多白话要素。关于量词, 在《圣经直解》的翻译文中, 量词没有出现, 《四史攸编》除了一个度量衡的标志以外, 也没有出现。而《神天圣书》从整个翻译文的印象来看, 由于她的大部分词汇是有文言特诚的虚字和句末助词, 应该看成用文言来翻译的圣经。但是, 因为《神天圣书》也有很多量词, 给我们感觉到它所具有的白话要素。《神天圣书》以后的马礼逊儿子的修改本和裨治文克陛存的译本等一些汉译圣经, 几乎都取掉白话要素, 改为文言性更强的表现。

R. モリソン (1782-1834) は、プロテスタントの宣教師として最初に中国に渡来し、聖書の中国語訳、英華・華英字典の編集、中国語学研究の3つの仕事に活躍した。その1つ聖書の中国語訳が『神天聖書』(1823)である。中国語訳聖書の文体で、『神天聖書』は所謂「文理 (Wenli, High Wenli)」に分類される。しかし、モリソンは翻訳にあたり、「忠実で、明快で、単純であることを心がけ、古典のことばよりも、ふつうのことばを選び、洗練より分かりやすさを取った」と言い、また『三国演義』のような文体がふさわしい、とも考えていた。本稿では、初期中国語訳聖書における数詞と量詞の用法について、『神天聖書』の用例を中心に、『聖經直解』、『四史攷編』との比較対照を通して考察したい。なお、モリソンの『神天聖書』4福音書については1813年刊『新遺詔書』に収録されたものを資料として使用した。

1 数詞“兩”と“二”の使い分け

現代中国語では、とくに口語ではモノを数えるときには“兩”を使い、順序を言うときには“二”を使う、というように両者の使い分けがある。『聖經直解』『四史攷編』『神天聖書』『聖經』の4書でも“兩”と“二”が混在しているが、それぞれ用法において、使い分け、或は相違があるのかどうか、『聖經直解』から順に見ていきたい。

1.1 『聖經直解』での用例

(1) “兩”は3例しか無く、名詞との間に量詞をとらない。

2-3-6-J2-6 依厥俗堂下設有石樽六以供盥樽各幾容三兩肩

7-4-7-L5-7 急呼比舟伴並力兩舟充物幾沉

8-2-1-M6-24 維時耶穌謂門徒曰一人弗克兼役兩主蓋必須惡一愛一就一離一爾等弗克事天主兼事瑪滿

(2) “二”は34例あり、とくに名詞との間に量詞をとらない。

4-4-9-J6-9 茲有小廝攜大麥餅五魚二此些微烏給此眾

5-2-168-J19-32 武卒拆斷二賊脛

5-2-5-M26-34 耶穌謂之曰予真語爾今夜雞鳴二番前爾卻背予三番

1例目は名詞に数詞を後置するもので、量詞は持たない。また、“兩”が名詞に後置されるものは無い。さらに3例目のような動量詞もある。

1.2 『四史攸編』での用例

(1) “兩”は5例しか無く、名詞との間に量詞をとらない。

- 7-2-M9-17 又欲裝新酒者未有用舊皮袋不然袋破裂酒洩漏而無用然以新酒裝新皮袋而兩存矣
- 9-2-M6-24 無人克役兩主者蓋必惡一好一當一欺一爾等弗克事神共事財
- 5-3-L5-7 招在他舟之友皆來助之既來充物兩舟幾乎沉
- 16-2-L17-35 有兩婦在磨室一見取一見遺
- 5-6-J2-6 彼有六石缸以供如達人攸習之盥每缸容三兩桶

最後の用例は、『神天聖書』では、“且在彼有設六石缸照如大人盥之風俗每缸容水兩三桶(2-6)”となっている。

(2) “二”は60例あるが、量詞を伴う用例は無い。

- 10-4-M10-29 二麻雀豈非一分售乎且非爾父之命無一落地
- 12-6-M20-24 耳十者聽愠然怒二弟兄
- 27-13-L23-39 二賊同掛者之一懟之曰爾若基利斯督自救己並救我等
- 19-1-J6-9 此有一童有大麥餅五及二魚者然此為斯眾係何物乎
- 22-13-M22-26 第二第三至第七
- 27-19-J19-32 卒因先斷折第一及第二同耶穌被釘者之脛

用例は名詞の前に付くものでは、上記のほか“二歳”、“二瞎”、“二弟兄”、“二徒”、“二姐妹”、“二衣”、“二舟”、“二人”、“二主”、“二昆仲”、“二惡犯”、“二妹”、“二籃”などがある。“第二”は3例ある。

1.3 『神天聖書』での用例

(1) “兩”は95例あり、『四史攸編』から一気に用例数が増え、“二”との割合が逆転している。

- M20-24 其十位聞此則滿恨兩弟兄們
- L2-24 又以獻祭依主例所言一對班鳩並兩嫩鴿子
- J8-17 又載爾律云以兩人之証為真

さらに、“兩”が量詞を伴うようになり、用例も多くなっている。

- M25-17 又接收兩個吠啾吠者亦聽有兩個吠啾吠
- Ma10-8 致伊兩個為一肉故伊等尚無兩個乃一肉也

L5-2 見兩隻船在湖旁惟其打魚輩上岸洗厥網

(2) “二”は“第二”の17例と単用されるもの3例を除くと25例となり、そのうち量詞を伴うものは3例、量詞を伴わず名詞の前に付く用例が22例である。

まず、量詞を伴うものは以下の3例である。

Ma6-38 其謂伊等曰爾有多少個餅去看伊等既得知曰五個連二尾魚

L10-1 此後主亦另命七十位遣之每二位同去其面前以入其想往到之各邑處

J6-9 此有一童有大麥餅五個小魚二尾者然此分與斯眾係何物乎

量詞を持たず名詞に前置する用例は以下の通りである。

L7-19 隨若翰喚二門徒差伊去耶穌問之爾為彼來者我曹或必望第二耶

L17-35 將有二婦同磨麵一被搶一見留

J1-37 二徒聞言即隨耶穌

この他、名詞に前置する用例には、“二處”、“二婦”、“二子”、“二人”、“二門徒”、“二債者”などがある。

1.4 『聖經』での用例

(1) “兩”は96例あり、『神天聖書』とほぼ同数で、『四史攸編』から一気に用例数が増えている。“二”との割合も、同じく逆転している。以下、『神天聖書』に用例がある章節と対照してみると、「ルカ」第2章第24節が“一對班鳩”と表現を揃えて量詞を伴っている他は、ほぼ同じ文となっている。

M20-24

【神天】其十位聞此則滿恨兩弟兄們

【聖經】其十位聞此即滿恨兩弟兄們

L2-24

【神天】又以獻祭依主例所言一對班鳩並兩嫩鴿子

【聖經】又獻祭物依主例所云一對班鳩及一對嫩鴿

J8-17

【神天】又載爾律云以兩人之証為真

【聖經】又爾律載云以兩人之證為真

さらに、『神天聖書』では“兩”が量詞を伴うようになって、用例も多くなったが、『聖經』でも、同じような結果となった。

M25-17

【神天】又接收兩個咄啾咄者亦聽有兩個咄啾咄【聖經】又接收兩箇咄啾咄者亦聽得兩箇咄啾咄

Ma10-8

【神天】致伊兩個為一肉故伊等尚無兩個乃一肉也【聖經】致伊兩個為一肉故伊等尚無兩個乃一肉也

L5-2

【神天】見兩隻船在湖旁惟其打魚輩上岸洗厥網【聖經】睹兩隻船泊湖邊但其漁人上岸澣網

(2) “二”は“第二”の13例と単用されるもの7例を除くと17例となり、そのうち量詞を伴うものは3例である。

まず、量詞を伴うものは以下の3例である。

Ma6-38

【神天】其謂伊等曰爾有多少個餅去看伊等既得知曰五個連二尾魚【聖經】其謂伊等曰爾有幾多個餅去看伊等既得知曰五個並兩尾魚

L10-1

【神天】此後主亦另命七十位遣之每二位同去其面前以入其想往到之各邑處【聖經】此事後主亦另派七十位遣之每二位同去在其面前以進其欲到之各邑處

J6-9

【神天】此有一童有大麥餅五個小魚二尾者然此分與斯眾係何物乎【聖經】此有一童有薏苡餅五個小魚二尾然此分與斯眾是何物乎

量詞をもたず名詞に前置する用例は以下の通りである。

L7-19

【神天】隨若翰喚二門徒差伊去耶穌問之爾為彼來者我曹或必望第二耶【聖經】若翰呼二門徒遣伊往問耶穌爾為彼來者抑吾儕望別者

L17-35

【神天】將有二婦同磨麵一被搶一見留【聖經】將有兩婦同磨麵一被擄一見遣

J1-37

【神天】二徒聞言即隨耶穌【聖經】二徒聞言即隨耶穌

1.5 モリソン改訳と BC 訳での用例

前項で対照した『神天聖書』『聖經』に“兩”、“二”の用例がある章節と、同じ章節を比較すると次のようになり、とくに L5-2 の用例のように、文言的な表現になっているものが多い。

L5-2

【四史】其視二舟在于湖濱漁輩下洗網

【神天】見兩隻船在湖旁惟其打魚輩上岸洗厥網

【聖經】睹兩隻船泊湖邊但其漁人上岸澣網

【改訳】見湖邊二舟漁翁不在乃出洗網

【B C】見二舟在湖濱漁人離舟洗網

L17-35

【四史】有兩婦在磨室一見取一見遺

【神天】將有二婦同磨麵一被搶一見留

【聖經】將有兩婦同磨麵一被擄一見遺

【改訳】有二婦磨粉一擄一放

【B C】二婦同磨一見執一見遺

2 量詞

名詞に数の表現が伴う場合、4 福音書の全文を通して、基本的には数詞、名詞が直接つながっており、量詞が用いられている箇所は少ない。以下、少ないながらも使われているものにはどのようなものがあるか見ていきたい。

2.1 『聖經直解』と『四史攷編』

まず、『聖經直解』には、“個”をはじめとして、いずれの量詞も用例が無い。次に、『四史攷編』では、ほとんど量詞は見られず、次の例のように数詞を直接に名詞に前置、後置するものが一般的である。

19-1-J6-9 此有一童有大麥餅五及二魚者然此為斯眾係何物乎

名詞に前置するものでは、僅かに以下の用例のように、度量衡を表すものだけが見られる。“斛”は旧時に、10斗斛を指した度量衡の単位である。原典（英語対訳）では各々“Centum cados olei (An hundred pipes of oil)”すなわち「油百 cados (1 cado は37リットル)」、 “Centum coros tritici (an hundred quarters of wheat)”すなわち「小麦百 coros (1 coros は

370リットル)」となっている¹⁾。原典では両者の量は10倍の差があるが、結果として同じ量しか表していない。

14-5-L16-6 日百斛油日授券疾坐書五十

14-5-L16-7 問次日汝負若干日百斛麥日授券書八十

同節は『神天聖書』ではその点は改められて、次のように、いずれもギリシャ語原典の“βατους (baths)”すなわち「バテ (1バテは37リットル)」、 “κοπους (measures)”すなわち「コル (1コルは370リットル)」の音訳語表現になっており、欄外の注で“巴是升斗之名”、“何馬是升斗之名”と説明が加えられているが、どの程度の量を指すのかは見えてこない。『聖經』でも同じく、“一百巴油”、“一百何馬麥”となっている。

L16-6 日一百巴油且謂之曰取爾單速坐寫五十

L16-7 方問別人日爾欠若干日一百何馬麥對曰取爾單寫八十

この他には、数詞、量詞が名詞に後置されるものが1例しか無い。用例は以下の通りである。

28-13-L24-42 徒獻炮魚一分蜜窩一方

2.2 『神天聖書』での用例

以下、1813年版『新遺詔書』における量詞の用例を、幾つかの項目に分けて見ていきたい。

2.2.1 お金の単位

金銭については、中国語の元来の“銀子”、“銀”に言い換えたもののほか、聖書原典の音訳語である“吐唎吐 (タラント)”、“咭唎唎 (デナリ)”、“唎吡吐 (レプタ)”、“呱咭 (コドラント)”などで表現されている。

まず、原典の金銭の額面の大小は以下の通りである²⁾。

2レプタ = 1コドラント

1) ラテン語ブルガタ訳聖書原典 (*The Vulgate New Testament, with the Douay Version of 1582*) 及びその英語対訳を参照した。

2) 日本語訳『聖書』(1977)の金銭に関わる部分の注釈に基づいて計算した。

128レプタ = 64コドラント = 1 デナリ (ドラクマ)

4 デナリ = 1 スタテル

100 デナリ = 1 ミナ

6000 デナリ = 60 ミナ = 1 タラント

『神天聖書』における金銭の表現には、多くの場合、量詞が伴っているが、量詞“錢”の場合を見てみると、すべて1 デナリ (a denarius) を表す用例である。デナリは当時の1日分の労賃に相当する金額で、最も基本となる単位であることから、他とは表記が区別されたのかも知れない。

M20-2 其既同工人相約每日給銀一錢其差伊等如葡萄園

M20-13 其答伊等之一日友我非使爾何不公爾豈非同我相約受一錢銀乎

M20-9 且伊等僱於十一時既來即一然收銀一錢

M20-10 惟第一輩既來伊等想必接尤多但伊等亦每人接銀一錢

「デナリ」は音訳語もあり、“低喲喇吡”と表記され、量詞は1 デナリにしか付かない。同じ1 デナリを表すのに、以下のように「マタイによる福音書」では“塊”、「ルカによる福音書」では“文”が使われている。“文”は金銭に関しては、この用例しかなく、「ルカによる福音書」が全般的に語彙の傾向が他と異なることの1つの現れであろうか。

M22-19 給我看進貢之錢故伊取與之一塊低喲喇吡

L20-24 教我一文低喲喇吡看誰的象與字在上伊等答曰西撒耳的

2 デナリ以上になると量詞は使われない。

L10-35 於明日臨去時取出兩低喲喇吡付與店主謂之曰小心之除此銀爾更所有費…

M18-28 惟是僕出去而遇厥同僕欠之一百低喲喇吡 …

L7-41 日或債主有二債者一負欠五百低喲喇吡一負欠五十低喲喇吡

J12-5 此香油為何不賣去得價三百低喲喇吡而施與貧者

量詞“塊”() 内にはギリシャ語原典(英語対訳)での語彙を付した。

M17-27 …爾既開魚口則遇一塊銀子取而給之為我連爾之貢也

(a stater スタテル 1 枚)

L19-20 第三來曰主夫爾塊銀在此我藏之汗巾内而守之

- (1 ミナ³⁾)
- M27-6 且祭者首輩取此塊銀子曰不該當以之入庫因是血之價
(silver coins 銀貨)
- M27-5 且其以該數塊銀子擲下於堂中而往去自縊
(silver coins 銀貨)
- M27-9 …且伊等取三十塊銀其被值得之價以色耳以勒之子輩所值也
(thirty pieces of silver 銀貨30枚)
- Ma14-5 蓋可賣之得三百塊銀之上而以之賙濟其貧窮故讒及婦人
(three hundred denarii 300 デナリ)
- M26-15 向伊等曰爾給我何也而我付他與爾等故伊等相約給他三十塊銀
(thirty pieces of silver)
- M27-3 時如大士賣付之者見耶穌擬死則自悔而取其三十塊銀帶回與祭者首並老輩
(thirty pieces of silver)
- L15-8 又何婦有十塊銀子或失其一塊豈非點燈掃房勤尋致覓着乎
(drachmas having ten/one drachma)
- L19-13 且聚厥十僕而以十塊銀付之謂之曰用此待我回 (ten minas)
- L19-16 隨伊之第一來曰主爾之一塊銀已贖十塊 (mina/ten minas)
- L19-18 伊之第二來曰主爾之一塊銀已贖五塊 (mina/five minas)
- L19-24 隨吩咐立侍者曰拿去其之一塊銀付與其有十塊者 (mina/ten minas)

聖書の中の最高額のタラントには量詞“個”が使われている。1タラントは6000デナリ、1デナリは当時の1日分の労賃に相当する。用例から見るに、「タラント」は10枚までの小さい数字には量詞“個”を使い、大きい数字“一萬”になるとそのまま用いるようである。

- M25-15 主交與一僕以五個吠啞吠與別個僕以兩個吠啞吠與別的僕以三個吠啞吠與每人依厥能幹而即游走也
- M25-28 且取去其之一個吠啞吠而給之與他有十個吠啞吠
- M18-24 其開算時有帶就之一個欠之一萬吠啞吠

ごく少額を表す単位では、「レプタ」は1デナリの128分の1に相当する最小単位の銅貨で、「コドラント」は1デナリの64分の1で、2レプタに相当する。

- Ma12-42 且有或貧寡婦來而投兩啞吡娜為一呱啞入

3) 1ミナは約100日分の労賃相当額にあたる。

2.2.2 さまざまな量詞

郭明昆 1962 が「華語の陪伴詞は、個物の形態的な特徴を形象化した表象である。(中略) すなはち、視覚的な映像の通りに形象化しようとするものである」というように、モノの形態を視覚的にとらえようとする心の動きが文字（或は音）に現れたものであり、中国語の口頭語においては重要な要素であるといえる。それを西洋人宣教師、とくにモリソンはどう捉えて、具体的にどう使用していたのか、その『神天聖書』における用例の幾つかについて見ていきたい。

(1) “隻” は同じく郭明昆 1962 によると、魚類を除く、禽獣走獣の有足類で、船舶を“隻”で表象する。『神天聖書』では「ひつじ、らくだ、船、すずめ」に使われる。

M12-11 其謂伊等曰爾等何人有一隻羊若於噉啗日跌入坑不即捉而拔之出乎

Ma10-25 一隻駝入通針之眼比富人進神之國更容易

L5-2 見兩隻船在湖旁惟其打魚輩上岸洗厥網

L5-3 耶穌上船之一隻屬西門者即請之由岸離些其方坐而由船上教民

L12-6 五隻雀豈非為兩分而賣惟在神前伊之一非忘記矣

「ひつじ」を数えるときでも、1 頭のときは量詞が付くが、99、100 と数が大きくなると量詞が付かない。

M12-11 其謂伊等曰爾等何人有一隻羊若於噉啗日跌入坑不即捉而拔之出乎

M18-12 …若一人有一百羊而其之一逃去其人豈非離其九十九羊而往於山尋所失者乎

L15-4 爾中何人既有一百羊或失其一豈非就離九十九在野而去尋所失之一待覓着之乎

(2) “塊” は、断片的、破片的な、かたまった形状のものに対して広く用いられる。『神天聖書』では、お金以外では、まず以下のように「いしころ、海綿、布」に使われる。

Ma13-2 耶穌答謂之曰爾見此之大建屋也伊皆將盡毀倒致無一塊石留在他石上也⁴⁾

M27-48 即時有伊中之一跑去取一塊吐味啞滿之以醋縛之于葦而與之飲

Ma2-21 無人縫一塊新織的布補舊衣恐一塊新布裂其舊衣致更為爛

これら以外に「焼き魚」も“塊”で表象される。

L24-42 伊等奉之一塊燒魚並蜜蜂窩

4) 本文で挙げた以外には以下の用例がある。

M24-2 耶穌謂伊等曰爾視彼諸物我確語爾知將來不留一塊石在別的塊石上乃皆必致毀倒也

Ma15-46 且其買細麻布取尸下包之麻布內放之在鑿于大石內之墓而滾一塊石墓門之前

これは「焼き魚」になって既に「生きてはいない塊」の肉片になったことを表しているのかも知れない。生きた魚は以下の用例のように“尾”を以て表される。

- M14-17 伊等謂之曰我們在此止有五餅與兩尾魚
 Ma8-7 伊等又有幾尾小魚且其祝謝而令亦設之眾前
 J6-9 此有一童有大麥餅五個小魚二尾者然此分與斯眾係何物乎

(3) “條”は細長いもの「髪の毛、葦、ヒソプ（の枝）」に使われる。

- M5-36 又爾不可以爾首而發誓蓋爾無能以一條髮變為或黑或白也
 M11-7 伊等往後耶穌講及若翰語眾曰爾等出野見何也一條葦以風而被搖乎
 J19-29 夫在彼有皿滿以醋故伊將個吐味啞滿之以醋縛之在一條啼嘶嘶伸到厥口邊

(4) 建物に関係するものでは、“間”と“座”が使われている。

- M10-12 爾既入一間屋即請安是家
 L22-12 其人將指爾一間大上樓彼準備
 M21-33 爾聞別的比喻有或家主種葡萄園四面插籬而其內掘一個酒醉建一座塔時租之與農夫後往遠地

(5) “杯”が使われているのは“水”のみであった。

- M10-42 又凡將賜此小輩止以一杯冷水因其為我之門徒我確語爾知其必不失其之賞也
 Ma9-41 蓋凡因我名而賜爾等以一杯水因汝屬基利士督我確語爾其不失厥賞矣

この他に量詞の用例としては「からし種、麦のつぶ」の粒状のものを“粒”、或は“顆”（ルカによる福音書の1例のみ）、「(対になった) 2羽の家鳩」の“對”、「いちじくの木」の“根”、物事を数える“件”、「天の軍勢」の“群”、「みずがめ」を数える“瓶”などがある。

(6) もっとも多く使われている量詞は、“個”で、主に“吠啞吠、子、弟兄、偽証見、瞎子、時辰、酒醉、塔、神、餅”など、ヒトからモノまで幅広く使われている。「マタイによる福音書」に限ってみても、以下の用例のように表象する範囲は幅広い。

- M12-45 且其去而同帶七個神比自己尤惡而入居彼…（靈）
 M22-28 故此於復活時婦將為其七個弟兄中何一之妻蓋伊皆娶之（兄弟）
 M8-28 …於厄耳厄西尼地有遇之兩個懷鬼風者大猛致無人敢經過（悪靈につかれた人）
 M9-27 耶穌從彼去時有兩個瞎人隨後呼曰爾大五得之子矜憐我等（盲人）
 M15-14 由伊等也伊等為瞎者引瞎者也且若瞎者引瞎者則兩個必跌落于溝也

- M15-36 且其取七個餅同魚而既祝謝擘之交與門徒並門徒交與眾（パン）
 M21-28 …或人有兩個子其來到第一個向之曰子爾今日往我葡萄園裏行工（子）
 M25-1 時天之國可比十個貞女取燈出迎新郎（娘）
 M27-38 時有兩個賊同被釘十字架一於右手一於左手也（強盜）
 M26-40 且其就門徒遇伊等睡而語彼多羅曰何也爾不能同我醒守一個時辰乎（時間）
 M26-60 惟無遇何罪也雖偽証見多來尚未遇何罪也至終有兩個偽証見來曰（偽証者）
 M21-33 …種葡萄園四面插籬而其內掘一個酒醉建一座塔時租之與農夫…（酒ぶね）
 M25-2 其內五個為有智的五個為愚蠢的（名詞を持たないもの）

(7) 現代語ではヒトを数えるときの丁寧表現となる“位”は、最後の1例を除いて、いずれも使徒の人数を数えるのに使われている。

- M10-2 夫十二位使徒乃此第一西門名彼多羅者同安得路厥昆又…
 M26-47 語未畢卻如大士十二位之一而同他大眾帶刀棍等物從祭者首並民之老輩來
 M18-16 惟他若弗聽爾則同帶一兩位致以兩三之証各言得確實也
 M18-20 蓋不拘何處有兩三位于我名而會我即在伊之中
 M20-24 其十位聞此則滿恨兩弟兄們
 M23-15 …蓋爾周走海岸欲得一位門徒而既得之為之比自己更兩倍地獄之子也（改宗者）

(8) 道のりは“里”で表される。

- M5-41 又有何人逼勒爾同行一里路即同他行兩里路也

(9) 同じ句の中で量詞をくり返す。同一句の中で、量詞をくり返し用いるスタイルも見られるが、用例はすべて“個”である。量詞のくり返しによって、白話的な印象が強くなっている。

- M21-35 惟農夫將厥數僕打一個殺一個以石擊一個
 M22-5 但伊等輕忽而往去也一個去理耕田一個去理賣買
 Ma10-37 伊等謂之曰賜我們坐一個在爾右一個在爾左于爾榮
 Ma15-27 又同之伊等釘十字架兩個盜賊一個在右手一個在左手
 J20-12 見兩個神使白衣坐一個在首一個在脚耶穌之尸所先放在處

2.3 『聖經』での用例

(1) “隻”は『神天聖書』では「ひつじ（一隻羊）、らくだ（一隻駝）、船（兩隻船）、すずめ（五隻雀）」に使われたが、『聖經』ではこの4例に加えて、「手」にも使われる。

- M12-10 卻見一人有一隻手衰了伊等問耶穌曰於噉啗日醫人為合例與否

「ひつじ」を数えるときは、『神天聖書』と同じく、数が大きくなると量詞が付かない。

M18-12

【神天】…若一人有一百羊而其之一逃去其人豈非離其九十九羊而往於山尋所失者乎

【聖經】…如人有一百羊而其之一逃去其人豈不離其九十九羊而往於山尋所失者乎

(2) “塊”は、断片的、破片的な、かたまった形状のものに対して広く用いられる。『神天聖書』では、お金以外では、まず以下のように「いしころ、海綿、布」に使われている。1つ目の用例のように、量詞がなくなったものは例外で、2つ目以下の用例のように、『神天聖書』と同じく、「いしころ、海綿、布」に対して、量詞“塊”が使われている。

Ma13-2

【神天】…爾見此之大建屋也伊皆將盡毀倒致無一塊石留在他石上也

【聖經】…爾見此之大建造也此將全被毀倒致無留一石在別石上也

Ma2-21

【神天】無人縫一塊新織的布補舊衣恐一塊新布裂其舊衣致更為爛

【聖經】無人縫一塊新織的布補舊衣恐一塊新布裂其舊衣致更為爛

(以下はいずれも『聖經』の用例のみ)

M27-48 即時有伊中之一跑去取一塊吐唾啞滿之以醋縛之于葦而與之飲

M27-60 而置之于其新墳鑿于石內者又滾一塊巨石到墓門而離去

Ma15-46 …包之麻布內放之在鑿于大石內之墓而滾一塊石于墓門之前

また、『神天聖書』にある「焼き魚」に対する“塊”は『聖經』でも使われているということは、マーシュマンも既に「生きてはいない塊」の肉片になったものに対しては、“尾”ではなく、「かたまり」を表す“塊”が妥当であると考えたのかも知れない。

L24-42

【神天】伊等奉之一塊燒魚並蜜蜂窩

【聖經】伊等奉之一塊燒魚並蜜蜂窩

生きた魚については、『聖經』も以下の用例のように“尾”を以て表される。

M14-17

【神天】伊等謂之曰我們在此止有五餅與兩尾魚

【聖經】徒曰我們止有五箇餅與兩尾魚在此

J6-9

【神天】此有一童有大麥餅五個小魚二尾者然此分與斯眾係何物乎

【聖經】此有一童有蕙苡餅五個小魚二尾然此分與斯眾是何物乎

(3) “條”は『神天聖書』では、細長いもの「髪の毛、葦、ヒソプ（の枝）」に使われているが、M5-36の用例では、“根”が使われ、M11-7では量詞が無い。『聖經』では、J19-29以下の如く、“條”を使うのは「ヒソプ（の枝）」と、“小魚”、“律”である。

M5-36

【神天】又爾不可以爾首而發誓蓋爾無能以一條髮變為或黑或白也

【聖經】又爾勿誓以己首蓋爾莫能使一根髮變為黑或白也

M11-7

【神天】伊等往後耶穌講及若翰語眾曰爾等出野見何也一條葦以風而被搖乎

【聖經】伊等去後耶穌向眾講及若翰曰爾們出野見何也一葦被搖以風乎

J19-29 …故伊將個吐沫啞滿之以醋縛之在一條啼嘶啞伸到厥口邊

M15-34 耶穌問伊等曰爾有多少餅伊等曰七箇並幾條小魚

J19-7 如大輩答之曰我們有一條律且依是律其該死因自稱為神之子

(4) 建物に関係するものでは、『神天聖書』と同様に、「部屋」と「二階の大広間」に“間”、「やぐら」に“座”使われている。

M10-12

【神天】爾既入一間屋即請安是家

【聖經】爾既進一間屋即問安其家

L22-12

【神天】其人將指爾一間大上樓彼準備

【聖經】其將指汝一間大樓彼準備

M21-33

【神天】…有或家主種葡萄園四面插籬而其內掘一個酒醉建一座塔時租之與農夫…

【聖經】…有或家主種葡萄園週圍插籬其內掘一個酒醉建一座塔而租之與農夫…

(5) “杯”は『神天聖書』では“一杯冷水 (M10-42)”、“一杯水 (Ma9-41)”の用例があるが、各々字体は“盃”が使われている。

Ma9-41

【神天】蓋凡因我名而賜爾等以一杯水因汝屬基利士督我確語爾其不失厥賞矣

【聖經】蓋凡因我名而賜爾曹以一盃水飲因爾屬基利士督我確語爾其弗失厥賞矣

この他にも、量詞は各々、多くの名詞に付くが、いずれも1つ1つの用例は少ないので、とくに用例は挙げない。

(6) 量詞“個”は、『聖經』でも主に“吠啾吠，子，弟兄，偽証見，瞎子，時辰，酒醉，塔，神，餅”など、ヒトからモノまで幅広く使われている。以下、『神天聖書』の「マタイによる福音書」から用例として挙げた章節が『聖經』ではどうなっているか見てみると、「盲人」と「パン」については量詞が使われていないが、3つ目の用例（M21-45）以下のものについては、『神天聖書』と同様である。

M9-27 (盲人)

【神天】耶穌從彼去時有兩個瞎人隨後呼曰爾大五得之子矜憐我等

【聖經】耶穌離彼時有兩瞎人隨後呼曰爾大五得之子矜憐我們

M15-36 (パン)

【神天】且其取七個餅同魚而既祝謝擘之交與門徒並門徒交與眾

【聖經】方取那七餅與魚祝謝畢擘之而授厥徒厥徒隨給與眾

M12-45 (靈)

【神天】且其去而同帶七個神比自己尤惡而入居彼…

【聖經】且其去而帶七個神比己更惡者同入住彼…

M22-28 (兄弟)

【神天】故此於復活時婦將為其七個弟兄中何一之妻蓋伊皆娶之

【聖經】故將來復活之時其婦為七個中何一之妻蓋伊皆娶之

M8-28 (悪霊につかれた人)

【神天】…於厄耳厄西尼地有遇之兩個懷鬼風者大猛致無人敢經過

【聖經】…于厄耳厄西尼地遇之兩個懷鬼風者自墓出來極猛致無人敢經其路

M21-28 (子)

【神天】…或人有兩個子其來到第一個向之曰子爾今日往我葡萄園裏行工

【聖經】…或人有兩個子其來到第一個謂之曰子爾今日去我葡萄園內行工

M25-1 (娘)

【神天】時天之國可比十個貞女取燈出迎新郎

【聖經】時天之國可比十個貞女取燈出迎新郎

M27-38 (強盜)

【神天】時有兩個賊同被釘十字架一於右手一於左手也

【聖經】時有兩個賊同被釘十字架一於右手一於左手

M26-40 (時間)

【神天】且其就門徒遇伊等睡而語彼多羅曰何也爾不能同我醒守一個時辰乎

【聖經】且其就門徒見伊等睡而語彼多羅曰何也爾不能同我醒守一個時辰乎

M26-60 (偽証者)

【神天】惟無遇何罪也雖偽証見多來尚未遇何罪也至終有兩個偽証見來曰

【聖經】惟無遇何罪雖多偽證見來無遇何罪至終有兩個偽證見來曰

M21-33 (酒ぶね)

【神天】…種葡萄園四面插籬而其內掘一個酒醉建一座塔時租之與農夫後往遠地

【聖經】…種葡萄園週圍插籬其內掘一個酒醉建一座塔而租之與農夫後往遠地

M25-2 (名詞を持たないもの)

【神天】其內五個為有智的五個為愚蠢的

【聖經】其內五個為有智的五個為愚的

(7) 現代語ではヒトを数えるときの丁寧表現となる“位”は、『神天聖書』と同じく、ほぼ全ての用例が使徒を指している。

M10-2

【神天】夫十二位使徒乃此第一西門名彼多羅者同安得路厥昆…

【聖經】夫十二位使徒之名乃此第一西門名彼多羅者同安得路厥昆…

M26-47

【神天】語未畢卻如大士十二位之一而同他大罽帶刀棍等物從祭者首並民之老輩來

【聖經】尚言間卻如大士十二位之一而同他大罽帶刀棍等物從祭者首並民之老輩來

(8) 道のりは“里”で表される。

M5-41 又有何人逼勒爾同行一里路即同他行兩里路也

(9) 同一句の中で量詞をくり返すものは、『聖經』では、M21-35のように『神天聖書』と同様に“個”を繰り返すものがほとんどであったが、M22-5のように表現されているものもある。

M21-35

【神天】惟農夫將厥數僕打一個殺一個以石擊一個

【聖經】惟農夫將厥數僕打一個殺一個與石擊一個

M22-5

【神天】但伊等輕忽而往去也一個去理耕田一個去理賣買

【神天】惟伊等輕忽而往去也一者去理農務一者去貿易

2.4 モリソン改訳と BC 訳における量詞の扱い

2.4.1 モリソン改訳の場合

以下、『神天聖書』で量詞の用例があった章節での表現が、モリソン改訳ではどのようなになっているのか見ていきたい。

(1) “隻”は『神天聖書』での用例のうち、モリソン改訳でも同じように使われているのは、「すずめ」に対してだけである。『神天聖書』からモリソン改訳へ、用例は、“有一隻羊→有羊 (M12-11)”、“一隻駝→駱駝 (Ma10-25)”、“兩隻船→二舟 (L5-2)”、“船之一隻→其一舟 (L5-3)”というふうに変更され、「すずめ」だけが量詞が残って“五隻雀→五隻雀鳥 (L12-6)”となった。また、「ひつじ」を数えるとき、99、100など大きい数がでる文脈では、『神天聖書』とは逆に量詞が付くようになった。

M18-12

【神天】…若一人有一百羊而其之一逃去其人豈非離其九十九羊而往於山尋所失者乎

【改訳】倘人有羊百隻不見一隻爾等意想如何豈非以九十九隻遺於山野自往尋悠亡者乎

(2) “塊”は、『神天聖書』でのお金以外の用例は、各々“無一塊石留在他石上也→不遺石疊石 (Ma13-2)”、“一塊吐沫啞→一塊海綿 (M27-48)”、“一塊新織的布→新布 (Ma2-21)”となり、「海綿」だけに量詞が残った。「焼き魚」の“塊”は“炙魚一尾”となり、生死の区別なく「さかな」に量詞が付く場合はすべて“尾”で表象されている。

(3) “條”は細長いものでは、『神天聖書』からモリソン改訳へ、「髪の毛」が“一條髮→髮一毫 (M5-36)”、「葦」が“一條葦→葦 (M11-7)”、「ヒソプ (の枝)」が“一條唏嘶啼→牛膝草 (J19-29)”となっている。

(4) 建物に関係するものでは、各々“入一間屋→入家 (M10-12)”と“建一間大上樓→一層大樓 (L22-12)”、“建一座塔→建樓 (M21-33)”となった。

(5) その他、“杯”が“水”に使われ、『神天聖書』での用例と同じく“一杯冷水 (M10-42)”、“一杯水 (Ma9-41)”であった。この他に量詞の用例としては、「麦のつぶ (J12-24)」、「からし種 (J13-19)」のいずれもに“粒”が使われている。物事を数える“件”は、『神天聖書』の9例のうち「問を發する」もの3例については、“問～一句”となっている。

また、『神天聖書』「ルカによる福音書」で「(対になった) 2羽の家鳩」を表象する“對”の用例は、改訳で“雙”に改められている。

L2-24 (原典) a pair of turtledoves or two young pigeons.

【神天】又以獻祭依主例所言一對班鳩並兩嫩鴿子

【改訳】又循上主之例奉祭即一雙班鳩或兩鴿子矣

二物の結合形態を表すことばについて、郭明昆1962は、「雙」は同質の二物の平等的な

聯立、本然的な並立であるのに対して、「對」は、異質の二物の対等的な対立ないし同質の二物の対等的な人為的配合である、と説明する。そして、例えば夫婦は、異質対等の二物であるから、「一對夫婦」である、と言う。上記の用例は、原典の下線部“a pair of turtledoves”は「山ぼと1つがい」で「雌雄一對」であるから、どちらかと言うとモリソンの『神天聖書』での用例のほうが理屈に適っていたと言える。

(6) 『神天聖書』の量詞で用例が最も多く、ヒトからモノまで幅広く使われた“個”（但し、M25-2の用例は名詞を持たないもの）は、モリソン改訳では、“餅五個魚兩尾 (Ma6-38)”など例外もあるものの、ほとんどの場合に、「マタイによる福音書」の以下の用例のように、量詞を省いた文言的な文体に改められている。

- M9-27 (盲人) 【神天】有兩個瞎人隨後→【改訳】二瞽隨之
 M15-36 (パン) 【神天】取七個餅同魚→【改訳】取七餅兼魚
 M12-45 (靈) 【神天】而同帶七個神比自己尤惡→【改訳】另招七鬼比己越惡者
 M22-28 (兄弟) 【神天】婦將為其七個弟兄中何一之妻→【改訳】七人之中誰得此妻
 M8-28 (悪靈につかれた人) 【神天】有遇之兩個懷鬼風者→【改訳】正遇二人犯邪鬼
 M21-28 (子) 【神天】有兩個子／第一個向之曰→【改訳】有二子／其長曰
 M25-1 (娘) 【神天】時天之國可比十個貞女→【改訳】天國可比童女十人
 M27-38 (強盜) 【神天】時有兩個賊→【改訳】夫有二賊
 M26-40 (時間) 【神天】同我醒守一個時辰→【改訳】偕我做寤只一時辰
 M26-60 (偽証者) 【神天】至終有兩個偽証見來→【改訳】畢竟二妄證者來
 M21-33 (酒ぶね) 【神天】其內掘一個酒醉→【改訳】中間掘酒醉
 M25-2 【神天】五個為有智的／五個為愚蠢的→【改訳】智者五人／愚者五人

(7) “位”についても先の“個”と同じく、すべて削除されて、文言的な表現に改められている。

- M10-2 【神天】十二位使徒→【改訳】十二門生
 M26-47 【神天】十二位之一→【改訳】十二門生之一人
 M18-16 【神天】帶一兩位→【改訳】帶一二人
 M18-20 【神天】有兩三位→【改訳】有二三人
 M20-24 【神天】其十位→【改訳】其十門人
 M23-15 【神天】欲得一位門徒而既得之→【改訳】招一門徒既得之

(8) 同じ句の中で量詞をくり返す表現も『神天聖書』では見られたが、いずれの用例も以下のように、量詞“個”が削られ、文言的な表現に改められている。

M21-35【神天】打一個殺一個以石擊一個→【改訳】撻一殺一以石擊一

M22-5【神天】一個去理耕田一個去理賣買→【改訳】一理耕田一理買賣

Ma10-37【神天】坐一個在爾右一個在爾左→【改訳】坐主左右

Ma15-27【神天】兩個盜賊一個在右手一個在左手→【改訳】有二賊一左一右

J20-12【神天】坐一個在首一個在脚→【改訳】一坐其頭一坐其脚

2.4.2 ブリッジマン・カルバートソン訳 (BC 訳) の場合

さらに、BC 訳へと継承されていく過程で、量詞がどのように扱われていくのか、『神天聖書』、モリソン改訳と比較対照しながら見ていきたい。

(1) “隻”はモリソン改訳では、「すずめ」に対してだけになった。『神天聖書』からモリソン改訳をへて BC 訳の用例は、“有一隻羊→有羊→有一羊 (M12-11)”、“一隻駝→駱駝→駝 (Ma10-25)”、“兩隻船→二舟→二舟 (L5-2)”、“船之一隻→其一舟→一舟 (L5-3)”となり、「すずめ」も“五隻雀→五隻雀鳥→五雀 (L12-6)”となっている。また、「ひつじ」を数えるときの99、100など大きい数でも再び量詞が無くなっている。

M18-12

【神天】…若一人有一百羊而其之一逃去其人豈非離其九十九羊而往於山尋所失者乎

【改訳】倘人有羊百隻不見一隻爾等意想如何豈非以九十九隻遺於山野自往尋悠亡者乎

【BC】或一人有百羊而其一逃夫其人豈不遺九十九於山而往尋所迷失者乎

(2) “塊”のお金以外の用例は、『神天聖書』、モリソン改訳を経て各々“無一塊石留在他石上也→不遺石疊石→將無一石遺於石上 (Ma13-2)”、“一塊吐咄啞→一塊海綿→海絨 (M27-48)”、“一塊新織的布→新布→新布 (Ma2-21)”となり、いずれの用例からも量詞がなくなった。「焼き魚 (L24-42)」の量詞は“一塊燒魚→炙魚一尾→炙魚一片”となり、「さかな」一般はすべて“尾”で表されている。

(3) “條”は『神天聖書』で細長いものを表したが、モリソン改訳を経て各々「髪の毛」が“一條髮→髮一毫→一髮 (M5-36)”、「葦」が“一條葦→葦→葦 (M11-7)”、「ヒソプ (の枝)」が“一條唏嘶啼→牛膝草→牛膝幹 (J19-29)”となり量詞は無くなっている。

(4) 建物に関係するものは、“入一間屋→入家→入人之家 (M10-12)”、“一間大上樓→一層大樓→大樓 (L22-12)”、“建一座塔→建樓→建塔 (M21-33)”となり、量詞は無くなっている。

(5) その他、“杯”は、『神天聖書』から一貫して“一杯冷水→一杯冷水→一杯水 (M10-

42)、“一杯水→一杯水→一杯水 (Ma9-41)”のように使われている。この他に量詞の用例としては、「麦のつぶ」には“粒 (J12-24)”、「からし種」には“顆 (J12-24)”が使われている。物事を数える“件”は、『神天聖書』の9例のうち「問を發する」もの3例については、“問～一句”となっている。

また、“對”の用例は、改訳で“雙”にかわり、BC訳でもそのまま受け継がれている。

L2-24

【神天】又以獻祭依主例所言一對班鳩並兩嫩鴿子

【改訳】又循上主之例奉祭即一雙班鳩或兩鴿子矣

【BC】又獻祭循主例所言以雙鳩或二雛鴿

(6) 『神天聖書』の量詞で用例が最も多く、ヒトからモノまで幅広く使われた“個”（但し、M25-2の用例は名詞を持たないもの）は、モリソン改訳を経たBC訳でも、「マタイによる福音書」の以下の用例のように、全て量詞を省いた文言的な文体に改められている。

書章節	日本語の意味	神天聖書	モリソン改訳	BC訳
M9-27	盲人	兩個瞎人	二瞽	二瞽者
M15-36	パン	七個餅	七餅	七餅
M12-45	靈	七個神	七鬼	七鬼
M22-28	兄弟	其七個弟兄中	七人之中	七人中
M8-28	悪霊につかれた人	兩個懷鬼風者	二人犯邪鬼	患鬼之二人
M21-28	子	兩個子／第一個	二子／其長	二子／其長
M25-1	娘	十個貞女	童女十人	童女十人
M27-38	強盜	兩個賊	二賊	二盜
M26-40	時間 one hour	一個時辰	一時辰	片時
M26-60	偽証者	兩個偽証見	二妄證者	二妄證者
M21-33	酒ぶね	一個酒醉	酒醉	酒醉
M25-2	—	五個為有智的 五個為愚蠢的	智者五人 愚者五人	愚五智五

(7) “位”についてもさきの“個”と同じく、全て削除されて、文言的な表現に改められている。

書章節	神天聖書	モリソン改訳	BC訳
M10-2	十二位使徒	十二門生	十二使徒
M26-47	十二位之一	十二門生之一人	十二門徒之一
M18-16	帶一兩位	帶一二人	一二人

書章節	神天聖書	モリソン改訳	BC 訳
M18-20	有 <u>兩</u> 三 <u>位</u>	有二三人	二三人
M20-24	其十 <u>位</u>	其十門人	十徒
M23-15	一 <u>位</u> 門徒	一門徒	一人

(8) 同じ句の中で量詞をくり返す表現も『神天聖書』では見られたが、いずれの用例も以下のように、量詞“個”が削られ、文言的な表現に改められている。

書章節	神天聖書	モリソン改訳	BC 訳
M21-35	打 <u>一個</u> 殺 <u>一個</u> 以石擊 <u>一個</u>	撻一殺一以石擊一	扑一殺一以石擊一
M22-5	一 <u>個</u> 去理耕田一 <u>個</u> 去理賣買	一理耕田一理買賣	一往於田一往於市
Ma10-37	坐一 <u>個</u> 在爾右一 <u>個</u> 在爾左	坐主左右	一坐爾右一坐爾左
Ma15-27	兩 <u>個</u> 盜賊一 <u>個</u> 在右手一 <u>個</u> 在左手	有二賊一左一右	二盜…一在其左一在其右
J20-12	坐一 <u>個</u> 在首一 <u>個</u> 在脚	一坐其頭一坐其脚	一在首一在足

3 小結

数詞に関して言えば、『聖經直解』でも、太田1958に言う“兩”の古典語としての用法が有った訳ではないが、『聖經直解』と『四史攷編』は、用例数に限って言えば、“兩”は僅かで、“二”の用例数が多く、全体として、文言的であったと言える。しかし、『神天聖書』になると、“兩”の用例数が一気に増えて、“二”と使用頻度が逆転し、さらに“兩”は量詞を伴うものが多くなった。数字の使用に関しては白話の要素が高くなったといえる。

量詞について言えば、『聖經直解』には用例は1例も無く、『四史攷編』でも、度量衡の単位1例を除いて用例は見られなかった。『神天聖書』は、文体全体からみると、文言的な虚字、句末助詞の用例の多さから、その文体が文言的と判断せざるを得ないところがあるが、本節で見たように、この量詞の多さが白話的な印象を強めていると言える。『神天聖書』後の、モリソン改訳やBC訳にいたっては、全体的に文言回帰の要素が強いなかで、とくに量詞の用例がほぼ消えて無くなっているところが、割合に目立つ特徴であると言えるかも知れない。

参考文献

- 郭明昆1962「華語における形態觀念」『中国の家族制及び言語の研究』早稲田大学出版部
 太田辰夫1958『中国語歴史文法』江南書院

中国語訳聖書資料

『聖經直解』(『天主教東傳文獻』台湾学生書局1972)

『四史攸編』(大英図書館蔵)

『神天聖書』(1) ゆまに書房1999「幕末邦訳聖書集成」(2) (大英図書館蔵)

『聖經』(フランス国立図書館蔵)

『救世主耶穌新遺詔書』(大英図書館蔵) モリソン改訳

『新約全書』上海美華書館1864 (愛知大学図書館蔵) ブリッジマン・カルバートソン訳 (BC 訳)

聖書英語訳

THE INTERLINEAR NRSV-NIV PARALLEL NEW TESTAMENT IN GREEK AND ENGLISH, 1993 Zondervan
Publishing House, Alfred Marshall